

新宿区教育委員会会議録

令和 8 年第 6 回定例会

令 和 8 年 6 月 3 日

新宿区教育委員会

令和8年第6回新宿区教育委員会定例会

日 時 令和8年6月3日(水)

開会 午後 2時00分

閉会 午後 2時18分

場 所 新宿区役所6階 第4委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	針 谷 弘 志	教育長職務代理者	鴨 川 明 子
委 員	年 綱 和 代	委 員	的 場 美 規 子
委 員	津 田 晃 男		

欠席者

委 員	古 笛 恵 子
-----	---------

説明のため出席した者の職氏名

次 長	遠 山 竜 多	中 央 図 書 館 長	稲 川 訓 子
教 育 調 整 課 長	徳 永 創	教 育 指 導 課 長	波 多 江 誠
主 任 指 導 主 事	北 中 啓 勝	統 括 指 導 主 事	池 田 知
教 育 支 援 課 長	菊 地 ゆ み	統 括 指 導 主 事	牧 田 裕 一
学 校 運 営 課 長	高 橋 和 孝		

書記

教 育 調 整 課 主 査	古 市 将 貴	教 育 調 整 課 教 管 理 係	大 原 颯 人
---------------	---------	-------------------	---------

議事日程

議 案

日程第1 第30号議案 令和8年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について

報 告

- 1 令和7年度 学力定着度調査結果分析概要と改善策について（教育指導課長）
- 2 その他

◎ 開 会

○教育長 ただいまから令和8年新宿区教育委員会第6回定例会を開会いたします。

本日の会議には、古笛委員が欠席しておりますが、定足数は満たしています。

本日の会議録の署名者は、鴨川委員にお願いいたします。

○鴨川委員 かしこまりました。

◎ 第30号議案 令和8年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び
評価の実施方針について

○教育長 それでは、議事に入ります。

「日程第1 第30号議案 令和8年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について」を議題といたします。

なお、この後の説明及び答弁については、着座にてお願いいたします。

それでは、第30号議案の説明を教育調整課長からお願いします。

○教育調整課長 では、第30号議案の御説明をさせていただきます。

議案1枚おめくりいただきまして、「令和8年度 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施方針について」御説明いたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づきまして、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施するものでございます。

実施の目的は2つございます。

1つ目として、教育委員会が、教育に関する事務及び執行状況を点検及び評価し、課題や今後の改善の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

2つ目として、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、議会に報告するとともに、公表することにより、区民への説明責任を果たし、信頼される教育行政の推進を図るというところでございます。

点検及び評価の対象といたしましては、新宿区教育ビジョンに掲げる全ての個別事業といたします。

実施方法としては、1つ目として、点検及び評価は、令和7年度の個別事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の方向性を示すものとする。

2つ目として、学識経験者の意見を聴取した上で実施する。

3つ目として、11月の教育委員会定例会において点検及び評価の結果をまとめた報告書を決定し、翌年度の事業実施方針に反映する。また、報告書は区議会へ提出するとともに公表する、こういった実施方法でやってまいりたいと思います。

それでは、議案1ページ目にお戻りいただきまして、提案理由です。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うにあたって、実施方針を定める必要があるためでございます。

以上、御審議のほど、よろしくお願いいたします。

○教育長 説明が終わりました。第30号議案について、御意見、御質問がありましたら、お願いをいたします。

〔発言する者なし〕

○教育長 特に御意見、御質問がなければ、討論及び質疑を終了いたします。

第30号議案を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 第30号議案は、原案のとおり決定いたしました。

以上で、本日の議事を終了いたします。

◆ 報告1 令和7年度 学力定着度調査結果分析概要と改善策について

○教育長 次に、事務局から報告を受けます。報告1について説明を受け、質疑を行います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

○教育指導課長 それでは、報告1、令和7年度新宿区学力定着度調査結果分析概要と改善策について、御報告いたします。

お手持ちの資料、報告1を御覧ください。

調査対象は、小学校は2年生から6年生、国語と算数、中学校は1年生から3年生の国語、数学、社会、理科、英語となっております。資料左上、分析項目の説明については、記載のとおりでございます。

初めに、小学校の結果について説明いたします。

全体表1を御覧ください。こちら、教科総合偏差値についてです。

表を見ていただきますと、全ての学年で、教科総合偏差値は50を上回っています。

次に、全体表1の右側、全体表2を御覧ください。国語、算数、各学年の数値がございます。上段は、本区の正答率です。括弧内は全国の正答率です。国語、算数ともに全学年、全国平均を上回っております。下の段の目標値は、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示した値で、難易度が高い問題ほど、目標値の設定が低くなっております。

次に、教科別の状況についてです。

国語の結果の部分を御覧ください。

初めに、中央の部分にあります観点別の表、こちらを御覧ください。

観点別正答率においては、第2、第3学年の知識・技能の観点以外は、全学年、全国の数値を上回っています。そのすぐ下の表、問題の傾向を基礎・応用と分けた際にも、全ての学年で全国の数値を上回っています。その表の右側、特筆すべき単元及び問題について分析した結果、3年生の問題で書き直した文の空欄に入る言葉を「なぜなら」の書き出しで書く記述式の問題について、全国の数値を5.1ポイント上回っていますが、無回答率が27.2%となっており、この無回答率が全国平均より3.6ポイント高くなっています。正答率により、上位層から25%ずつ、A、B、C、Dと分けたうちの上位26から50%に当たるB層においても、無回答率が13.9%と高くなっております。

書くことに関する学習が未定着の児童がB層においても一定数いることを踏まえ、全体で再度復習が必要な部分であると捉えています。

表の一番右側、今後に向けての部分ですが、2つ目の項目、「読むこと」や「書くこと」については、どの学年でもA層とD層の差が大きい状況が見られています。学年相当の学習を理解するための日本語の習得状況に課題が見られる場合などもあるため、各学年や児童の状況に応じた指導を適切に行う必要があります。

続いて、算数です。中央の表を御覧ください。

観点別正答率においては、全学年で全国の数値を上回っています。問題の傾向を基礎、応用と分けた際にも、全ての学年で全国の数値を上回っています。右側、特筆すべき単元及び問題について分析した結果、6年生の問題で円柱の展開図をもとに側面の横の長さを求める問題において、全国の数値を23.6ポイント上回っています。

ただし、この問題でA層の児童の正答率が100%であったのに対し、D層では7.7%と、その差が著しく大きくなっています。一部の児童においては、基本的事項の定着を図る場面でも、前学年までの学習内容に遡って指導していく必要があると捉えています。

今後に向けてですが、特に高学年の算数では、割合や速さなど抽象的な概念が増えてくる

ため、理解が定着していない児童については、言葉での説明に加え、視覚的なイメージができるよう、例えば立体の展開図を組み立てる過程をアニメーションを用いて復習できるように指導するなど、調査結果に基づいた個別指導を充実させる必要があります。

1枚おめくりいただきまして、中学校の結果についてです。

上段、全体表5、それから全体表の6、教科総合偏差値、正答率と目標値の表を御覧ください。

この表5・6を見ますと、国語、数学、英語については、全ての学年で教科総合偏差値が50を上回りました。理科、社会については、第2学年のみ、教科総合偏差値が50を上回っています。目標値については、全ての学年で目標を達成していますが、第2学年を除き、全国平均も下回っている状況です。

中学校でも、まず国語、数学の結果から説明してまいります。

国語を御覧ください。

観点別の正答率においては、第1学年の知識・技能、第3学年の思考・判断・表現以外は、全国の数値を上回っています。問題の傾向を基礎・応用と分けた際には、第3学年の応用以外は全国の数値を上回っています。特筆すべき単元及び問題について分析した結果、第2学年の問題、竹取物語の一部分を歴史的仮名遣いから現代仮名遣いに直す問題において、この問題では、全国の数値を7.9ポイント下回りました。

今後に向けてですが、例えば今回出題された竹取物語の一節、「名をば、さぬきの造となむいひける。」は、古典の文法の基礎が詰まった非常によい例文であることから、単なる現代仮名遣いへの書換えだけではなく、係り結びの法則や、さぬき、造（みやつこ）など、歴史的背景を理解する知識など、生徒の理解や興味を深める指導を生徒の個別の実態に応じて行っていく必要があると捉えています。

次に、数学についてです。

観点別正答率においては、全国の数値を全学年で上回っています。基礎・応用と分けた際にも、全ての学年で全国の数値を上回っています。特筆すべき単元、問題ですが、第1学年の問題で出題された方程式を解く問題について、正答率は全国の数値より5.9ポイント上回っていますが、D層の正答率は41.6%、無回答率は24.3%となっています。

今後に向けてですが、領域別においても全国の数値を下回る状況はありませんが、上位層と下位層の差が大きい傾向があります。この方程式の問題のように、例えば文字式の計算や負の数の概念、手順を整理して実行していく力など、生徒のつまずきに応じた個別の指導を

充実させていく必要があると捉えています。

続いて、英語、社会、理科の結果を続けて御説明いたします。

まず、英語についてです。

観点別正答率においては、全学年で全国の数値を上回っています。基礎・応用と分けた際にも、全ての学年で全国の数値を上回っています。特筆すべき単元・問題ですが、第3学年の問題、括弧に最も適する英単語を書く問題について、正答率が全国の数値を4.7ポイント下回っています。また、D層の無回答率は53.2%と高くなっています。

今後に向けてですが、例えばこの問題では、文の意味を正しく理解した上で、1月を英語で正しく書くという英語の基礎的な語彙力と単語の知識を問われています。この問題で、全国の正答率を下回っているということを考えると、多くの生徒にとって未定着と思われる学習内容、語彙や単語については、繰り返し丁寧に指導していく必要があると捉えています。

次に、社会です。

観点別正答率においては、第2学年以外で全国の数値を下回っています。基礎・応用と分けた際にも、第2学年のみ全国の数値を上回っている状況です。特筆すべき単元、問題についてですが、第2学年の問題、日本の工業について太平洋ベルトを答える問題について、正答率が全国の数値を13.7ポイント下回っています。また、無回答率も18.3%と、全国より4.2ポイント高くなっています。

今後に向けてですが、項目の2つ目、歴史であれば、各時代の大まかな流れ、地理であれば各地域の大まかな特色などについては一定程度定着してきていますが、太平洋ベルトを答えるこの問題のように、日本の工業地帯や工業地域の名称と関連させて、この地域で工業が盛んになった理由を理解するなど、知識を関連づけて定着を図るような指導を継続していく必要があると捉えています。

次に、理科です。

昨年度、全ての学年で教科総合偏差値が50を下回っていましたが、今年度は第2学年において50を上回りました。正答率は、第2学年以外で全国平均を下回りましたが、目標値については、全学年で上回る結果となりました。観点別正答率においては、第2学年の思考・判断・表現以外で、全国の数値を下回っています。基礎・応用と分けた際も、第2学年の応用以外は全国の数値を下回っています。特筆すべき単元、問題についてですが、第3学年の問題で2種類以上の元素からなる物質について、化合物と答える問題で正答率が全国の数値を5.0ポイント上回っているものの、無回答率がC層で22%、D層では64.2%と高くなってい

ます。

今後に向けてですが、観察・実験の名称や内容、関連する用語について明確に指導し、基本的な知識・技能の定着を図る必要があると捉えています。その際、この問題のように2種類以上の元素からなる物質の名称を答えるのであれば、化合物とは何かという用語の定義を自分の言葉で説明できるような指導をしていくことも重要であると捉えています。

それでは最後に、小・中学校共通の改善策について御説明いたします。

1枚目にお戻りください。

中段①から④まで挙げていますが、特に重点として①と④について御説明いたします。

①各校の実態分析に基づく組織的な対応の充実についてですが、正答率や分布などに応じた対応の充実を図りますが、例えば無回答率にも着目をし、御説明したように無回答率が高い領域では、習熟度別指導と個別指導を効果的に組合せ、その中で児童・生徒が相互に学び合えるような学習を工夫してまいります。

④ですが、個々の課題に応じた課題の提示など、個別最適化された学びの充実についてです。

家庭学習では、一律に同じ課題を示すだけではなく、タブレット端末を活用し、個々の習熟状況に応じた課題を示すなど、個別最適な学びの充実を図ってまいります。

報告は以上です。

○**教育長** 説明が終わりました。報告1について、御意見、御質問のある方はお願いいたします。

私から1点質問です。中学生の理科について、2年生が頑張ってくれているということですが、何か学校や教員側で工夫していることがあったら教えてください。

○**教育指導課長** 理科の学力の状況ですが、理科や社会の学力が国語、数学、英語について低い状況は、全国的な傾向として見られている状況であると指摘されています。実験や観察データに基づいてしっかり仮説・検証を行っていく学習について、子どもたちの思考力や表現力をしっかり授業の中で発揮させられる授業形態の工夫をしているところです。

○**教育長** 今後も引き続き理科、社会の分野について、よろしくお願いいたします。

ほかによろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○**教育長** ほかに御意見、御質問がなければ、討論及び質疑を終了いたします。

◆ 報告 2 その他

○教育長 次に報告 2、その他ですが、事務局から報告事項がありますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

○教育長 以上で報告事項を終了します。

◎ 閉 会

○教育長 本日の教育委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

午後 2 時 1 8 分閉会